

# A O 入学試験

〈出典一覧〉

- |      |   |                      |
|------|---|----------------------|
| 心 理  | 内閣府 平成 25 年度 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査                              |                      |
| 日 文  | 金田一春彦 『ホンモノの日本語を話していますか？』                                     | 角川書店                 |
| 歴 文  | 飯田卓 マダガスカルで考える、文化と無形文化遺産                                      | SYNODOS.Inc. (JAPAN) |
| ビジネス | 日本経済新聞社 日本経済新聞 2017 年 8 月 26 日付朝刊 202X 年、人余り再び？               |                      |
| 会 フ  | 日本経済新聞社 日本経済新聞 2017 年 9 月 13 日付夕刊<br>企業価値評価のイロハ(2) お金を生み出す力重視 |                      |
| 国 際  | 小西雅子 『地球温暖化は解決できるのか 一パリ協定から未来へ！』                              | 岩波書店                 |

別添資料は、雇用と人工知能 (AI) に関して述べた 2017 年 8 月 26 日の日本経済新聞朝刊の記事です。この記事を読んで、以下の問いに答えなさい。

- 1) 現在の人手不足に対して、企業はどのように対応しようとしているのかを説明しなさい。その際、必ず記事で述べられているデータを一つ以上引用すること。(300 字以内)
- 2) ロボットや AI は将来の雇用に対してどのような影響を与えると述べられているのかを説明しなさい。その際、必ず記事で述べられているデータを一つ以上引用すること。(300 字以内)
- 3) 記事の内容を踏まえて、今後どのような教育が望まれるのか、あなたの考えを述べなさい。(200 字以内)

# 202X年、人余り再び?

**AI導入で省力化進む**

省力化投資は右肩上がりで増加 (機械メーカーの産業用ロボットの受注)

期待の受注残高

受注額

職種ごとに有効求人倍率はばらつく (パートを含む常用雇用)

介護サービス  
飲食調理  
自動車運転  
商品販売  
営業  
機械組み立て  
会計事務  
一般事務

↑ 不足  
↓ 余剰

(出所)厚生労働省

「将来的にゼロ成長」を繰り返す。人口減に気回復率が低いロボットが向う同じ。人口減に気回復率が低いロボットが向う同じ。人口減に気回復率が低いロボットが向う同じ。人口減に気回復率が低いロボットが向う同じ。人口減に気回復率が低いロボットが向う同じ。人口減に気回復率が低いロボットが向う同じ。

1000の業務、ロボに  
社内にも余剰人員

### 人材育成へ政府が新組織

## 技能底上げ環境整備

人不足を顕著にする「18歳から24歳までの若者層」をどう育てるか。理想の人材育成は、ロボットやIT(情報技術)等を駆使した「幼少教育や高齢者への学習機会」をどう確保するか。ロボットやITを駆使した「幼少教育や高齢者への学習機会」をどう確保するか。ロボットやITを駆使した「幼少教育や高齢者への学習機会」をどう確保するか。

政府は9月に有識者会議(わいしきょう)化される。

(山下伊織)

## 「問題」

以下の文章は、日本経済新聞に掲載された記事「企業価値評価のイロハ(2) お金を生み出す力重視」です。この記事を読み①、②の問いに答えなさい。

①ファイナンスの考え方における企業の価値について説明してください。(200字以内)

②企業においてお金を生み出す力を考えることがなぜ重要なのでしょうか。あなたの考えを書いてください。(600字以内)

企業の価値とは何でしょうか。企業は調達した資金を投資してそこからもうけを得て、再投資したり資金提供者に配分したりします。一連の流れの中でお金を生み出す力、つまりキャッシュフロー(現金収支)を創出する力が企業価値です。

ここで使うのはキャッシュフローで、会計上の利益ではありません。会計上の利益は会計基準に基づいて見積もりなどの要素が入るからです。企業価値を評価する際は、より実体のあるお金の流れを重視します。

ファイナンスの考え方では、お金そのものには価値はありません。企業向け財務コンサルタントの石野雄一氏は「企業価値を高めるとは、企業が生み出す将来のキャッシュフローをいかに大きくするかだ」と指摘します。

企業価値は2つの側面から算出できます。一つは株主や債権者といった外部の資金提供者から見た価値です。純有利子負債に株式時価総額を加えたものです。有利子負債は企業にとって債務ですが、債権者にとっては資産であり、価値があります。

もう一つは企業の内側から見た価値です。事業活動により得られる価値と、事業活動以外による価値に分けられます。後者の事業活動以外の価値とは、株式や不動産などの保有資産を時価評価して算出します。

ポイントとなるのは、前者の事業活動による価値です。企業が事業により将来生み出すフリーキャッシュフローの現在価値を合計して算出します。現在価値は将来のフリーキャッシュフロー予想から割り引いて求めます。現在価値に直す際は、金利部分にあたる「割引率」を使います。

例えば、今年100万円のキャッシュフローを生み出せる会社があり、1年後も100万円を稼ぐとします。この場合、事業価値が200万円と考えるのは早計です。1年後の100万円を現在価値に直すと100万円ではない可能性があるからです。割引率を何%にするかによって、現在価値が変わってきます。

(出典:「企業価値評価のイロハ(2) お金を生み出す力重視」日本経済新聞夕刊2017年9月13日)